

第 39 回

建設業経理士検定試験

1 級 原価計算 模範解答

弥生カレッジ CMC / 会計アカデミー＋G P T

2026 年 9 月 13 日作成

※本試験問題の写真をもとに作成した独自の模範解答です。公式解答公表前のため、最終的には公式解答・解答速報と照合してください。

※計算問題は問題資料の数値から算定し、途中計算が追える形で示しています。

第1問 論述問題（20点）

問1 建設業原価計算の対外的目的

【模範解答】

建設業原価計算の対外的目的は、企業外部の利害関係者に対し、完成工事原価や未成工事支出金を適正に計算し、財務諸表を作成するための基礎資料を提供することにある。工事別原価を正確に把握して期間損益を適切に計算し、株主、債権者、発注者、税務当局等の判断に役立つ、客観的で信頼性のある会計情報を開示することを目的とする。

【採点キーワード】財務諸表作成／完成工事原価／未成工事支出金／期間損益／外部利害関係者

問2 特殊原価調査

【模範解答】

特殊原価調査とは、経常的な原価計算制度の枠外で、特定の経営意思決定に必要な原価資料を随時収集・分析する計算であり、代替案間で異なる将来の関連原価と収益を比較する。建設業では、受注・入札価格、工法や資材の選択、外注か自施工か、建設機械の購入・賃借・取替え、工事の継続・中止等の判断に活用し、埋没原価を除いて機会原価も考慮すべきである。

【採点キーワード】非経常的／特定の意思決定／代替案／将来の関連原価／外注・自施工／設備投資

第2問 正誤問題（14点）

番号	解答	根拠
1	A	原価計算基準における原価管理は、標準設定・実際原価の計算・差異分析・報告・改善措置からなる原価統制をいう。
2	A	管理可能性は原価自体に固定された属性ではなく、管理者の権限と管理階層により異なる。
3	B	施工品質に対応するのは「適合品質」であり、「設計品質」ではない。
4	A	長期的品質コスト・モデルでは、学習効果と機会損失を考慮し、無欠陥が総品質コストを低減すると考える。
5	B	供給者も需要者側の使用・維持・廃棄コストを考慮し、製品設計等へ反映させる必要がある。
6	B	長期使用される建造物では、一般に運用管理コストの比重が大きく、企画設計コストが大半を占めるとはいえない。
7	A	VEは価値を機能とコストの関係で捉え、必要機能を確保しながら原価低減を図る有効な手法である。

第3問 Q 資材と材料副費（14点）

問1 直接工事費に算入される Q 資材費

鉄筋工事用の送り状価額に、材料副費 3% を予定配賦します。

$$7,850,000 \text{ 円} \times 1.03 = 8,085,500 \text{ 円}$$

【解答】 8,085,500 円

問2 次月繰越 Q 資材

当月購入額のうち現場へ搬入されなかった送り状価額は、 $8,500,000 - 7,850,000 - 614,000 = 36,000$ 円です。

$$267,800 \text{ 円} + 36,000 \text{ 円} \times 1.03 = 304,880 \text{ 円}$$

【解答】 304,880 円

問3 副費配賦差異の繰越残高

当月予定配賦額： $8,500,000 \text{ 円} \times 3\% = 255,000 \text{ 円}$

当月差異：実際 256,080 円－予定 255,000 円＝1,080 円（借方差異）

前月貸方残高 3,300 円－当月借方差異 1,080 円＝2,220 円（貸方残高）

【解答】 B 2,220 円

第4問 自製か購入かの意思決定（18点）

問1 原価計算の目的

【解答】ウ 構造的意思決定目的

問2 部品P 4,000個のA案とB案

項目	A案自製	B案購入
DM-P	$3,000\text{kg} \times 3,000\text{円} + 1,000\text{kg} \times 2,850\text{円} = 11,850,000\text{円}$	—
直接労務費	$4,000\text{個} \times 0.5\text{時間} \times 3,900\text{円} = 7,800,000\text{円}$	—
変動製造間接費	$4,000\text{個} \times 0.5\text{時間} \times 1,700\text{円} = 3,400,000\text{円}$	—
特殊設備リース料	2,000,000円	—
購入費	—	$4,000\text{個} \times 6,600\text{円} = 26,400,000\text{円}$
合計	25,050,000円	26,400,000円

$26,400,000\text{円} - 25,050,000\text{円} = 1,350,000\text{円}$ だけA案が有利です。

固定製造間接費は、A案を選んでも発生額が変わらないため比較から除外します。

【解答】X 1,350,000円

問3 A案が有利となる年間必要量

3,000個以下ではDM-Pの単価は3,000円です。1個当たり関連変動費は、 $3,000 + (0.5 \times 3,900) + (0.5 \times 1,700) = 5,800\text{円}$ です。

$$5,800X + 2,000,000 < 6,600X \rightarrow 2,000,000 < 800X \rightarrow X > 2,500\text{個}$$

したがって整数個数では2,501個以上でA案が有利です。

【解答】2,501個以上

問4 A案とC案

A案：P自製 25,050,000円 + Q購入（2,000個 $\times$ 10,000円） 20,000,000円 = 45,050,000円

C案：P購入 26,400,000円 + Q自製 [2,000個 $\times$ (4,000 + 3,900 + 1,700)] 19,200,000円 = 45,600,000円

$45,600,000\text{円} - 45,050,000\text{円} = 550,000\text{円}$ だけA案が有利です。

【解答】X 550,000円

第5問 工事原価計算（34点）

1 当月原価の計算

甲材料 先入先出法

工事	計算	材料費
092	20 個×11,000 円+30 個×12,000 円	580,000 円
101	50 個×12,000 円+20 個×12,500 円－戻り 10 個×12,500 円	725,000 円
102	戻り 10 個×12,500 円+30 個×12,500 円+10 個×13,000 円	630,000 円
月末	50 個×13,000 円	650,000 円

8 日購入分は 25,000 円の値引後、 $(650,000 - 25,000) \div 50 \text{ 個} = 12,500 \text{ 円/個}$ です。16 日の戻りは 11 日出庫の取消しとし、次の出庫で最初に払い出します。

乙材料 すくい出し法

工事	当月投入額	完成時評価額	当月材料費
091	0 円	7,600 円	△7,600 円
092	38,000 円	7,300 円	30,700 円
101	41,000 円	未了	41,000 円
102	51,400 円	10,400 円	41,000 円

労務費

基本給・基本手当の当月発生額＝736,000＋105,000－115,000＝726,000 円

1 日当たり＝726,000÷22 日＝33,000 円。091 工事には特定残業手当 45,000 円を直接加算します。

工事	従事日数配賦	残業手当	労務外注	当月労務費
091	264,000	45,000	119,000	428,000
092	198,000	－	111,000	309,000
101	66,000	－	26,000	92,000
102	198,000	－	58,000	256,000

S 氏役員報酬の工事原価算入額

等価作業量＝施工管理 60 時間×1.5＋一般管理 120 時間×1.0＝210。等価作業量 1 単位当たり＝840,000÷210＝4,000 円。施工管理 1 時間当たりは 4,000×1.5＝6,000 円です。

工事別配賦額：091 90,000 円、092 120,000 円、101 60,000 円、102 90,000 円（一般管理費は 480,000 円）

重機械部門費の予定配賦

予定配賦率＝288,000÷180 時間＝1,600 円／時間。配賦額は 091 112,000 円、092 112,000 円、101 24,000 円、102 48,000 円、合計 296,000 円です。

問 1 完成工事原価報告書

区分	材料費	労務費	外注費	経費	合計
091 工事	113,000	587,000	210,500	348,000	1,258,500
092 工事	674,100	413,900	176,500	328,700	1,593,200
完成工事原価	787,100	1,000,900	387,000	676,700	2,851,700

091 工事の材料費は、月初 120,600 円から仮設資材完成時評価額 7,600 円を控除しています。月初の労務外注費は労務費へ振り替え、一般外注費のみを外注費に表示しています。

【解答】完成工事原価 2,851,700 円

問 2 月末未成工事支出金

工事	材料費	労務費	外注費	経費	合計
101 工事	766,000	92,000	44,500	118,500	1,021,000
102 工事	671,000	256,000	69,500	178,050	1,174,550
月末未成工事支出金	1,437,000	348,000	114,000	296,550	2,195,550

【解答】2,195,550 円

問 3 重機械部門費差異

当月予算差異＝実際発生額 299,000 円－固定予算額 288,000 円＝11,000 円（借方差異）

月末予算差異＝前月借方 1,050 円＋当月借方 11,000 円＝12,050 円（借方残高）

当月操業度差異＝固定予算額 288,000 円－予定配賦額 296,000 円＝△8,000 円、すなわち 8,000 円の貸方差異

月末操業度差異＝前月貸方 2,100 円＋当月貸方 8,000 円＝10,100 円（貸方残高）

差異	記号	月末残高
① 重機械部門費予算差異	A	12,050 円
② 重機械部門費操業度差異	B	10,100 円

会計アカデミー

建設業経理士 1 級 合格講座

キャンペーン実施中

財務諸表・原価計算・財務分析の 3 科目を、基本講義＋過去問ゼミで効率よく学習。理論添削、YouTube ライブ講座、月 2 回の無料質問会、試験直前オンライン合宿など、合格までの学習をサポートします。

講座	キャンペーン価格（税込）
3 セット合格パック	38,500 円
2 セット合格パック	28,600 円
1 科目合格パック	18,700 円

詳しい講座内容・最新のキャンペーン情報はこちら

<https://kaikei-academy.com/kensetsutop-1/>



スマートフォンのカメラで QR コードを読み取ってください。

弥生カレッジCMC / 会計アカデミー

※価格・キャンペーン内容は変更される場合があります。最新情報は上記 Web サイトでご確認ください。

建設業経理士1級・合格プログラム

- | | |
|---|------------|
| ① 基本講義 (オリジナルレジュメ)
財務諸表24回 原価計算18回 財務分析17回 | 各平均
45分 |
| ② 過去問ゼミ
TAC出版「合格するための過去問解説」
各10～19回も20回以降追加論点を追加
最新の過去問集に掲載されていないものは問題と解答がダウンロード可能です | 8時間
+ |
| ③ 理論対策 (財務諸表6時間・原価計算3時間)
概説書の記述問題をワケ分ち解説 | |
| ④ 添削 オンライン添削会
試験の前月に | |
| ⑤ オンライン合宿 | |
| ⑥ 財務分析3問・4問強化塾 | |
| ⑦ 意思決定強化塾(過去問研究) | |
| ⑧ 概説書読みまくり講座 | |
| ⑨ 概説書索引&練習問題 徹底解説 | |
| ⑩ スマホ学習ツール
(スマホではじめる建設業経理士1級) | |
| ⑪ ライブ質問会 (月2回) | |



建設業経理士1級 3セット 合格バック

35,000円 (税込: 38,500円)

28,000円 (税込: 30,800円)



建設業経理士1級 2セット 合格バック

26,000円 (税込: 28,600円)

20,800円 (税込: 22,880円)



建設業経理士1級 (財務諸表) 合格バック

18,000円 (税込: 19,800円)

14,400円 (税込: 15,840円)



建設業経理士1級 (原価計算) 合格バック

18,000円 (税込: 19,800円)

14,400円 (税込: 15,840円)



建設業経理士1級 (財務分析) 合格バック

17,000円 (税込: 18,700円)

13,600円 (税込: 14,960円)

**オンライン添削会付きで
この価格!!!**



32,000円 (税込: 35,200円)

23,000円 (税込: 25,300円)

15,000円 (税込: 16,500円)

15,000円 (税込: 16,500円)

14,000円 (税込: 15,400円)

9月末まで**キャンペーン①**価格

10月末まで**キャンペーン②**価格

安くても内容充実